短期予報解説資料　２０２６年１１月１２日１５時４０分発表

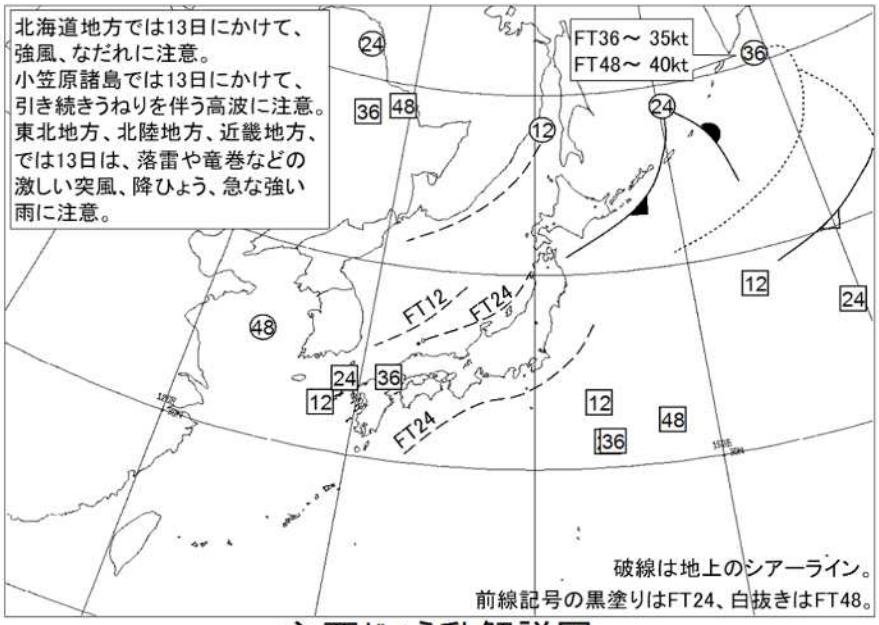
気象庁

１．実況上の着目点

① 500hPaでは日本付近はおおむね西北西流場。日本付近は、関東の東と東シナ海に中心を持つ高気圧が東西に帯状におおい、東～西日本を中心に晴れの所が多い。

② ①の高気圧の縁辺で北東風が比較的強かった影響、さらに台風第32号の影響も加わって、小笠原諸島ではしけの所があり、沖縄地方では波の高い状態となっている。

③ 500hPa 5700m付近のトラフが朝鮮半島付近を東進。トラフは500hPaで-21℃以下の寒気を伴う。水蒸気画像では回転が明瞭。



主要じょう乱解説図

④ 500hPa 5460m付近のトラフが中国東北区にあり、水蒸気画像ではトラフに対応した暗域が東南東進。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の西北西流場が13日にかけて継続する中、1項③の寒気トラフが東日本を13日日中に通過する。このトラフ通過に伴って、1項①の2つの高気圧の間で、気圧の谷（シアーライン）が日本海と太平洋側にそれぞれ顕在化する。上空の寒気や気圧の谷に向かって流れ込む暖かく湿った空気の影響で気圧の谷周辺では大気の状態が局地的に非常に不安定となる。東北地方、北陸地方、近畿地方では13日は、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 1項②の状況が13日にかけて続き、小笠原諸島では波が高くなる所がある。小笠原諸島では、引き続きうねりを伴った高波に注意。

③ 1項④のトラフ接近に伴って、低気圧が12日夜には間宮海峡に発生し、低気圧からのびる気圧の谷が北海道地方を通過する。北海道地方では13日にかけて、気圧の谷の通過に伴う強風に注意。

④ 14日は、500hPaで5700m付近と5820m付近のトラフが位相を併せて大陸東岸へ進むため、日本付近は西北西流場から次第に西南西流場に変わる。これに伴って、高気圧は日本の東に移動する一方、14日午前に黄海に低気圧、14日午後には東シナ海に前線が発生し、西から次第に雨雲が広がる見込み。今後、低気圧や前線の位置に不確かさはあるが、落雷、突風、急な強い雨に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］ ①雨量(18 時からの 24 時間)：多いところ（100 ㎜以上）はない。
②波浪(明日まで)：小笠原諸島 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　発表の予定はありません。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。